



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

Title	A Study on Relation Between Farmers and Middlemen in Vegetable Distribution System in Bangladesh(内容と審査の要旨(Summary))
Author(s)	Utsarika Singha
Report No.(Doctoral Degree)	博士(農学) 甲第713号
Issue Date	2019-03-31
Type	博士論文
Version	none
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/78470

この資料の著作権は、各資料の著者・学協会・出版社等に帰属します。

氏 名 (本 国 籍)	Utsarika Singha (バングラデシュ人民共和国)
学 位 の 種 類	博士 (農学)
学 位 記 番 号	農博甲第713号
学 位 授 与 年 月 日	平成31年3月31日
研 究 科 及 び 専 攻	連合農学研究科 生物生産科学専攻
研究指導を受けた大学	岐阜大学
学 位 論 文 題 目	A Study on Relation Between Farmers and Middlemen in Vegetable Distribution System in Bangladesh (バングラデシュの野菜流通システムにおける農家と 流通業者の関係)
審 査 委 員 会	主査 岐阜大学 教授 荒 幡 克 己 副査 岐阜大学 教授 前 澤 重 禮 副査 静岡大学 教授 加 藤 雅 也

論 文 の 内 容 の 要 旨

バングラデシュの青果物流通は、生産者から消費者に至るまでに多くの中間流通業者が関与している。一般的には、ファリア、ベラルーシ、アーサーダールと呼ばれる仲介者が複雑に関与し、それぞれの業者が独自に利益追求し、生産者である農家の利益・権利を重視する傾向が弱い。つまり、農家自らが農産物価格に対してアピールする状況にはなく、弱者として見過ごされる傾向が強い。将来のバングラデシュにおける青果物流通の在り方を議論するには、農家と中間流通業者（集荷業者）との現状分析が重要にある。先行研究では、マーケティングチェーンに介在する特定の間流通業者ファリアを排除して流通過程を短くすることの有用性が主張されている。一方で、この見解とは逆に、中間流通業者ファリアは、生産者と消費者を結びつける確固たる機能を果たしていることを主張している見解もある。そこで、バングラデシュ北東部 Lalmonirhat 地区 Hatibandha 区域の3つの農村地域において生産されている種々の農産物品目において、農家と中間流通業者の関連性を分析した。

本論文では、この問題に遭遇するために、Lalmonirhat 地区の Hatibandha 区域の3つの選ばれた村のバングラデシュの農家から収集した一次データに基づいて行い、その後の農家と仲介者の関係、farias という仲買人の農家の選択の背後にある理由彼らの販売パートナーが明らかにされた。発展途上国のバングラデシュでは野菜生産農家の組織化が未発達で個人出荷が中心である。そのため、意識の高い農家は、最も効率的な出荷先を自分で選択する傾向が強い。本研究の目的は、野菜農家が出荷先に野菜仲介者であるファリアを選択する要因を分析することである。Lalmonirhat 地区のキャベツ農家58人、カリフラワー

農家 66 人、ニガウリ農家 60 人へのアンケート調査を実施し、ロジスティック回帰分析を駆使してファリアと取引する農家特性を分析した。その結果、農家の年齢、家族人数、生産コスト、家畜数、農業経験、所得が正の相関を示し主要な要因であることが示された。一方、教育歴、各農家の圃場と市場との距離は負の相関を示した。また、輸送費、出荷してから販売までの時間、ファリアによる買取り量、先払い状況、購入価格にも関連性が見られた。このように、バングラデシュにおける野菜仲介業者ファリアは、農村部で野菜を売るための信頼できる流通主体であり、農民の生産意欲に少なからぬ影響を与えていることが示唆された。

今後は、野菜流通システムの充実を図り、農家および野菜仲介業者の機能強化につながる野菜市場の情報提供が重要になるだろう。

審 査 結 果 の 要 旨

申請者 Utsarika Singha は、バングラデシュの青果物流通構造における生産者と中間流通業者 Faria との関連性について流通研究を実施した。

バングラデシュの青果物流通では、種々の中間流通業者が関与し、生産者は独自の思考で出荷先中間流通業者を選択している。申請者は、特定の農村を選抜し、そこでの青果物流通の実態を物流面、商流面から調査分析し、多くの農民が、種々の中間流通業者のうち Faria を優先的に選抜している実態を、Faria の機能面から明確化すると共に、Faria に出荷している農民の特性を分析した。

これらの研究成果は、今後、経済発展が期待されるバングラデシュの食料事情の改善に繋がる効率的青果物流通の在り方を議論する際に不可欠な基礎情報であり、バングラデシュの食料問題の改善政策の立案に大きく寄与するものである。

基礎となる学術論文

- 1) Utsarika SINGHA and Shigenori MAEZAWA: Factors influencing farmers' decisions to trade with Faria (vegetable middlemen) in the vegetable supply chain in Bangladesh: A case study of Lalmonirhat district. *Journal of Rural and Food Economics*, (in press)
- 2) Utsarika SINGHA and Shigenori MAEZAWA: Production, marketing system, storage and future aspect of potato in Bangladesh. *Reviews in Agricultural Science*, Gifu University, (in press)